



テクニカル・メッセージ

トランスミッションオイルポンプ整備作業時の注意事項

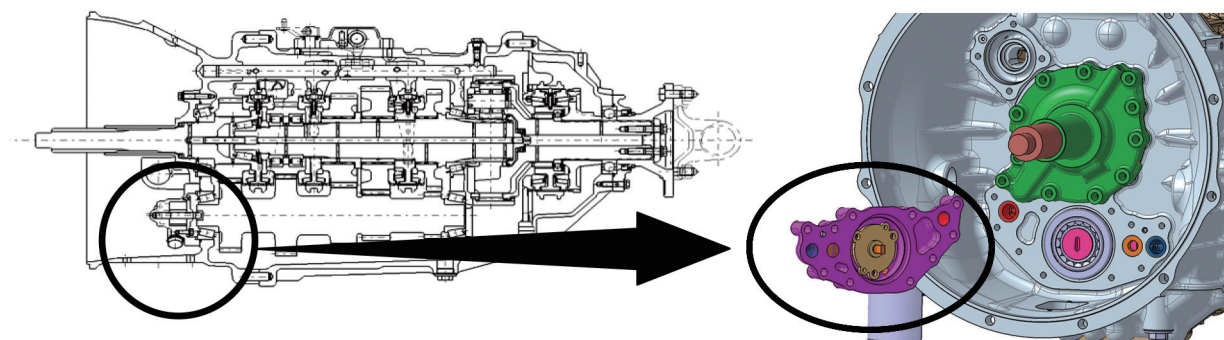
トランスミッション用オイルポンプの組み付け作業時において、オイルポンプ吐出口のOリングが変形した状態で組み付けられてしまい、そこからオイル漏れが発生する場合があります。

オイルポンプ取り付け要領をお知らせいたしますので、適切な整備作業をお願いいたします。

1. 対象車両

大型トラック（プロフィア） 中型トラック（レンジャー）

2. オイルポンプ搭載位置



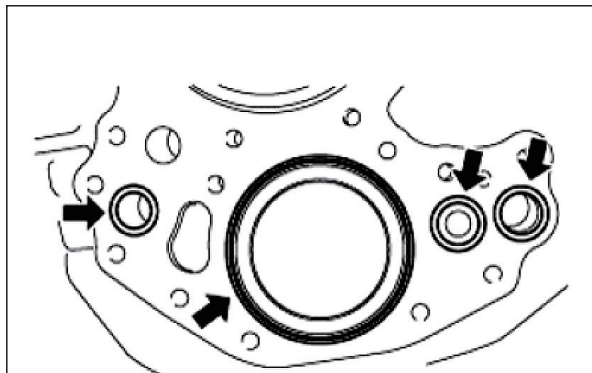
注) 本図は大型トラック(プロフィア)
MZ12の例

オイルポンプ

オイルポンプ取り付け時にOリングの変形からシール不良となりオイル漏れを引き起こした事例



3. オイルポンプ取り付け要領



手順 1

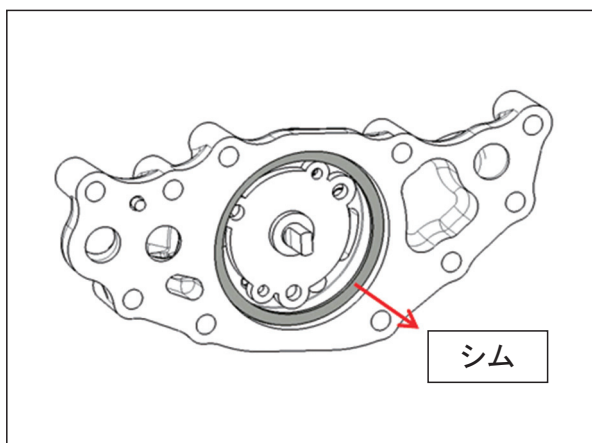
Ｏリング(４箇所)にグリスを塗布してクラッチハウジング側のＯリング溝に取り付ける。

👉 ポイント

Ｏリング(４箇所)にグリスを塗布して左図のようにクラッチハウジング側のＯリング溝に取り付ける。
(円を描くように指でなぞること)

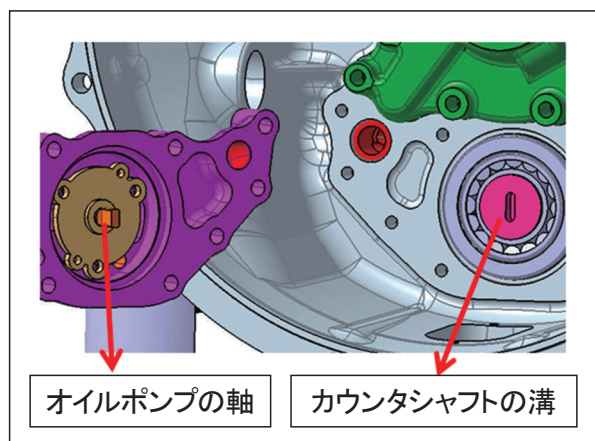
⚠ 確認

Ｏリングのはめ込みが不十分だとオイルポンプの組み付け時にＯリングを変形させる場合があります。



手順 2

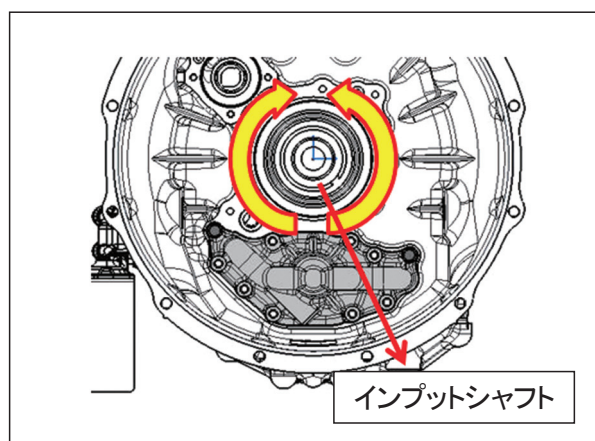
シムを選定してオイルポンプを取り付ける。
(シムの選定基準は整備解説書を参照)

**手順3**

オイルポンプの軸と、カウンタシャフトの溝を合わせ、仮付けする。

ポイント

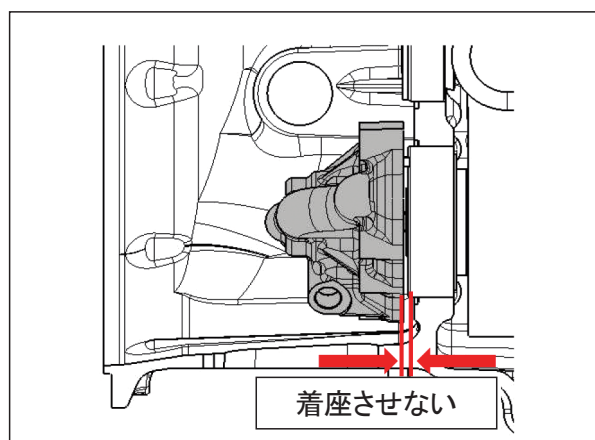
下記2点の注意内容を確認した上で作業を実施

**《注意①》**

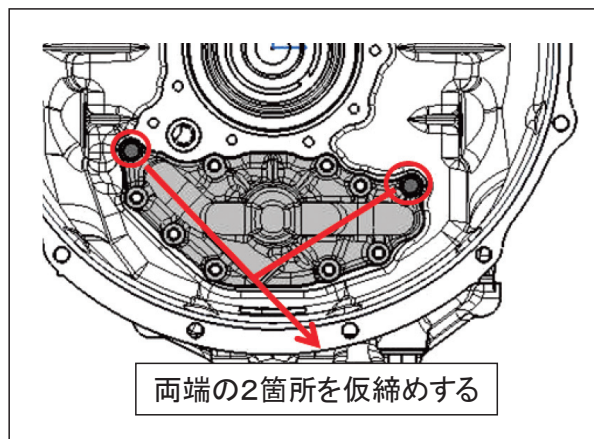
オイルポンプの軸と、カウンタシャフトの溝の位置を合わせる際はインプットシャフト側を手で回して調整する。

⚠ 確認

オイルポンプ側を回して位置を調整しようとする
とOリングが変形したり、ズレたりする恐れが
あります。

**《注意②》**

仮付けする際はオイルポンプをクラッチハウジング
側に着座させない。

**手順4**

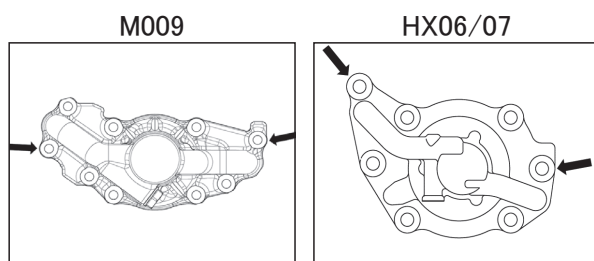
オイルポンプが着座していない状態のまま矢印の
ボルト2本を仮締めする

※左図は大型トラック(プロフィア)のMZ12

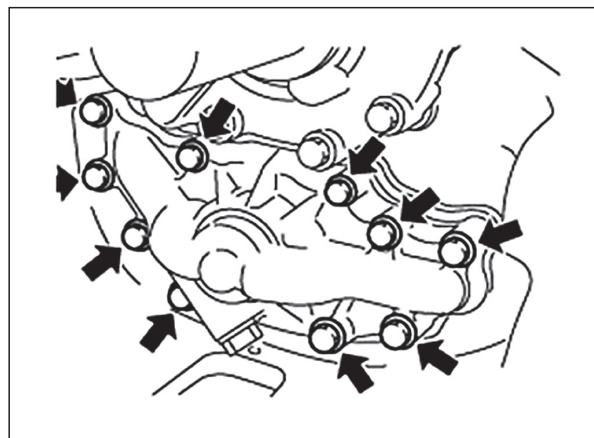
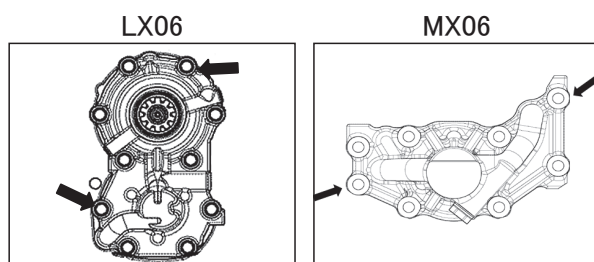
**ポイント**

2本のボルトをガイド代わりとして使用する
(MZ12以外のトランスミッションは下図参照)

◆その他のオイルポンプのボルト仮締め位置

大型トラック(プロフィア)

MZ12以外のオイルポンプは左図の矢印で示す
部分のボルトを仮締めしてガイドの代わりとする。

中型トラック(レンジャー)**手順5**

オイルポンプを着座させ、ボルトを全て規定トルク
で締め付ける。

(規定トルクは整備解説書を参照)